新編

No.4
2019 春号

新散策 善通寺

ふる里の風景を探る

新時代を告げた旧陸軍
明治の西洋建築

空海の里を
再発見する

特集
旧陸軍建築物の
魅力の秘密を探る

旧陸軍第 11 師団司令部

新時代の幕開け

明治政府による日本の西欧化

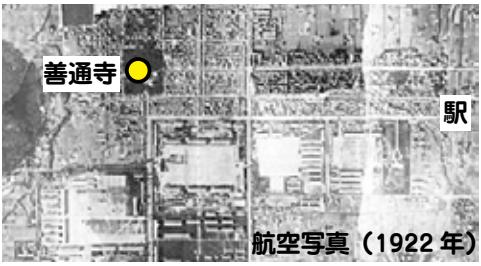
日本の西洋建築の導入は、江戸幕府が欧米列強と締結した不平等条約に深い関係があります。この条約の改正をめざす明治政府は、日本が国際法の対象となる文明国の一員であることを認めさせるために、富国強兵や殖産興業をはじめ様々な欧化政策を進めました。ホテル、工場、学校、役所、病院などは西洋式の機能が求められたため、洋式建築として建てられました。お雇い外国人が設計した主要施設のほか、地域の大工によってユニークな和洋折衷の木造洋式建築が建てられました。その後、建築費の節約などから学校建築や官庁舎建築は標準化がすすみ、官庁舎は内務省形式に定型化しました。こうした建築は木造または木骨石造の擬似西洋建築で、ペディメント（三角形の切妻壁）と列柱のついた車寄せに特徴がありました。こうしたなか、1898年（明治 31 年）、善通寺の街に旧陸軍第 11 師団が開庁され、軍関連施設によって街は一気に西欧化が進みました。

旧陸軍が築いた街

総本山善通寺の門前町として栄えた善通寺の街は、日清戦争勝利後に設置された陸軍第11師団によって軍都の道をとり、街の姿は大きく変わりました。明治初期の善通寺の街並は大きなものではありませんでしたが（下左図）、第11師団の設置が決定されると、数々の師団関連施設が建設され、それを支える電灯会社や国庫金を取り扱う銀行が開業しました。また、軍の物資や兵士を運ぶ四国新道や讃岐鉄道（現JR土讃線）が開通しました。その後（1922年、大正11年）、陸軍特別大演習実施の折りに、記念事業の一つとして琴平参宮電鉄が開業し、路面電車が市街地を巡るようになりました。

善通寺の街は、五岳山や大麻山を背に土器川扇状地の扇端に位置するため湧水が豊富で、多度津や丸亀の港にも比較的近い位置にあります。こうした立地条件は、1．清水が豊富なこと、2．港湾など交通の便が良いこと、3．軍事訓練用の山や広大な土地があることなどの兵営地選定の条件を満たしていたのです。

善通寺村（1873～75年頃）



善通寺市街地

旧司令部玄関

散策コース :40 ～ 60 分

JR 善通寺駅
↓
旧偕行社
↓
旧騎兵隊兵舎
↓
旧工兵大隊正門
↓
旧兵器部倉庫
↓
旧司令部

魅力の秘密を探る

旧陸軍関連施設

新時代の建築

軍都として栄えた善通寺市には、旧陸軍の関連施設や当時の居宅が今も点在しています。加工が容易な木造漆喰を基調とした洋風建築は、本来の欧米の建築とも異なり、文明開化を遂げた日本独特の風情をもつ擬似西洋建築とも言えます。

和風建築が主流だった時代に驚きの目で見られた木造洋風建築は、今ではレトロ感が漂います。先進的な西洋近代建築に慣れた現代人には、明治政府が導入した伝統的な西洋建築デザインは魅力あふれるものに映ります。

廊下
旧偕行社のベランダ

旧善通寺偕行社（重要文化財）

1903 年（明治 36 年）竣工の偕行社は、左右対称のルネサンス風の建築物です。切妻形状をした車寄せポーチの屁は角柱に支えられ、妻側は欧米建築にみられるペディメント（三角形の切妻壁）の様相となっています。

旧騎兵第 11 連隊兵舎

四国学院大学 2 号館の正面玄関に入ると、アーチ状の柱が目を引きます。堂々と出迎えてくれるアーチに、明治の人々は新しい時代を感じ取ったことでしょう。

旧司令部庁舎

旧司令部（現在、乃木館）には、初代師団長の乃木希典（のぎまれすけ）の執務室が残されており、当時の様子を伺うことができます。入場無料。要予約：0877-62-2311、休館日：水曜日と年末年始。

内閣文庫（明治村）

ドリス式

トスカナ式

レトロな西洋建築

明治の西洋建築は、過去の建築様式を復古させた様式で建てられたため、現代ではレトロな建造物に映ります。

レトロ感漂う
明治の西洋建築

さまざまな西洋建築

西洋建築の起源は古代ギリシャ、ローマ建築に遡（さかのぼ）り、中世にはゴシック建築が台頭するものの、ルネサンス以降、ローマ建築が再興されました。特にオーダー（柱と梁の構成法）を造形の源とする建築様式が 20 世紀初頭まで続きました。明治政府が西洋建築を導入した 19 世紀末は、過去の建築様式を復古させた建築が主流だったため、様々な様式の建築物が建てられました。そのため、現代ではレトロな風情を醸（かも）し出しています。こうした建築物には、半円アーチが施された、壁の厚い重厚な中世ロマネスク様式、尖塔アーチをもつ天空に聳（そび）えるゴシック様式、ルネサンス以降では、対称形や幾何学的形状を重んじるルネサンス様式、芸術的装飾が特徴的なバロック様式などの建物が含まれます（p7, 8 参照）。

1911 年（明治 44 年）に皇居大手門内に建造された内閣文庫（愛知県の明治村に移築）は、本格的なルネサンス様式のデザインで、明治期の典型的なレンガ・石造建築と評されています。古代ギリシャ・ローマの神殿を思わせる巨大なペディメント（三角形の切妻壁）とポルチコ（列柱が広がるポーチ）が特徴的です。列柱はエンタシスの柱と円盤状の梁（ドリス式）からなります。同様の構造は、四国学院大学に残

旧陸軍司令部庁舎（乃木記念館）

る旧騎兵隊兵舎の玄関にも見られます。

旧陸軍司令部庁舎や旧善通寺偕行社の建築は左右対称で、正面はペディメントやピラスター（付柱）で表現され、上げ下げ窓に控え目の装飾が施されるなど簡素なルネサンス風建築の外観を呈しています。また、旧司令部の正面入口には玄関ホールと階段室が設けられ（p3 参照）、梁にアーカンサスの葉があしらわれた（コリント式のオーダー）２本の柱がアーチをつくり、階段室前の空間を演出しています。アーチの中央に位置する階段は、踊り場を経て両脇に折り返す大きな空間を作っています。

旧騎兵隊兵舎（四国学院大学）

大工の手による西洋建築

明治初期の西洋建築は、お雇い外国人の設計による主要施設を除けば、地域の大工の棟梁に委ねられました。彼らが見よう見まねで建築した西洋建築は擬洋風建築（ぎようふうけんちく）とよばれます。西洋建築物の形をもちながら、和風・唐風の要素が混合された擬洋風建築は明治 20 年ごろまで続きました。

1888 年（明治 18 年）に完成した東山梨郡役所（写真下）は、正面側にベランダを廻らせた中央棟と左右棟からなる構成をとり、旧内務省を代表とする官庁建築を踏襲しています。これを請け負った地元大工は、壁面の隅に黒漆喰を塗り、西洋建築の隅石積の形を模しています。

東山梨郡役所（明治村）

完成された西洋建築

日本人建築家の台頭

旧第 16 師団司令部(ルネサンス風)

旧近衛師団司令部(ゴシック風)

旧第 4 師団司令部(ロマネスク風)

煉瓦(れんが)造りの旧司令部

善通寺市の第 11 師団司令部をはじめ、金沢市の第 9 師団司令部や豊橋市の第 15 師団司令部など各地の木造の旧陸軍司令部庁舎は、旧陸軍経理部で設計されたため、類似の仕様が見られますが、本格的な煉瓦(れんが)造りの建築物も残っています。

1908 年（明治 41 年）に京都市伏見に建造された旧陸軍第 16 師団司令部は２階建ての煉瓦造りです。正面のイオニア式の大オーダーとペディメントを特徴とし、銅葺きの屋根にドーマー窓をならべた左右対称のルネサンス風建築と言われます。

同様の煉瓦建築は、1910 年（明治 43 年）に竣工した近衛師団司令部にみられます。尖塔アーチの玄関をもち、正面玄関部に天に突出た八角形の塔屋をのせた中世ゴシック風デザインが採用されています。

大坂城内に残る第 4 師団司令部は、1931 年（昭和 6 年）に完成した鉄筋コンクリート製の建造物です。大阪市が大阪城の天守閣の再興と大阪城公園の整備を進める際に、城内の司令部庁舎を新築しました。小ぶりの窓に厚い壁の中世ロマネスク風のデザインで、正面の二つのタレット（隅小塔）や壁面上部の鋸型(のこぎりがた)の狭間が中世古城を連想させます。

本格的な西洋建築

見よう見まねで始まった日本人による西洋建築は、明治時代の後期になると、お雇い外国人が育てた日本人建築家により本格的な西洋建築物が建造されるようになりました。こうした建造物は、旧陸軍関連施設においても見ることができます。

旧金沢偕行社（バロック風）

窓飾りと付柱

旧旭川偕行社（コロニアル風）

ベランダ

旧善通寺偕行社（ルネサンス風）

各地の旧偕行社

偕行社は旧陸軍の将校たちの親睦、互助、研究組織として設立され、東京をはじめ各地の師団司令部所在地にその集会所が建築されました。各地の偕行社には、ルネサンス以降の西洋建築デザインがみられます。

善通寺偕行社（1903 年、明治 36 年建造）自体は寄棟形状の屋根ですが、車寄せポーチの上部屋根形状は、棟から張出す形で、特徴的な列柱に支えられた切妻構造となっており、その妻側はまさに西洋建築独特のペディメントを思わせる風貌です。

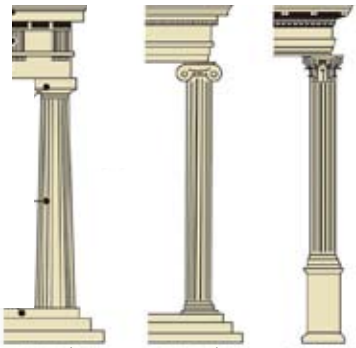
金沢に旧第 9 師団が設立された際に建造された旧金沢偕行社（1909 年、明治 42 年）は、木造で正面にアーチ型玄関と円柱のピラスター（付柱）、2 階のアーチ窓をつけ、また上げ下げ窓を上部のペディメントで装飾し、かつ横方向の部材（コーニス）で水平線を強調するなどバロック風の華やかなデザインが採られています。

旧旭川偕行社は、1902 年（明治 35 年）旧第 7 師団の木造２階建ての建築物です。正面中央には半円形のペディメントと半円形平面のポーチをつけています。正面 2 階のベランダに手すりを廻らせてコロニアル風にデザインされています。

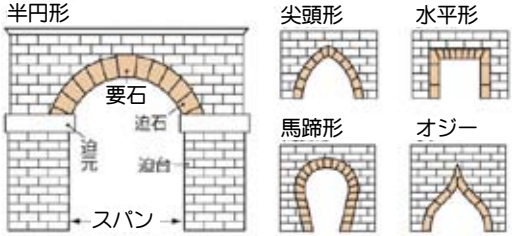
風景を楽しむまめ知識　洋風の構造

オーダー

オーダーとは古代ギリシャ建築に見られる円柱と梁、またそれらの建築全体の比例配分を指し、いくつかの種類にまとめられます。シンプルなドリス式は起源が最も古く、パルテノン神殿などに見られます。その後、梁の渦巻模様が特徴的なイオニア式のオーダーやアカンサス（ハマアザミ）の葉をモチーフにしたコリント式オーダーが使われました。中世を経て、ルネサンス期に古典建築が再発見されるとオーダーの比例美が注目されましたが、日本が西洋建築を輸入した明治時代初期には、オーダーは古典建築を表す記号的存在としてのみ用いられていました。



種々のオーダー



種々のアーチ

アーチ

アーチが実質的に地上建造物に使われるようになったのは古代ローマ時代といわれます。アーチは圧縮力に強い構造をもち、最後に最頂部の要石を打ちこむため、奇数個の石から構成されます。ローマのアーチは半円形で、門や水道橋をはじめ、ドームやヴォールト（コウモリ天井）などの建設に使われました。中世ヨーロッパでは、宗教上の理由もあって、半円の先が尖った尖塔アーチが造られました。尖塔アーチは、半円アーチよりも強いため、これにより巨大建造物の築造が可能になりました。イスラム建築に見られる馬蹄形アーチは、強度よりも装飾を重視したものと言われます。日本では、那覇市の天女橋や長崎市の眼鏡橋が有名です。

ベランダ

ベランダは母屋から張出した屋根のある部分で、日本家屋の縁側に相当します。南方のコロニアル様式を連想させますが、日本の気候に合わないため、建具をはめて室内化しました。ちなみに、バルコニーは屋根のないものを指します。

旧善通寺偕行社と中庭

車寄せ（ポーチ）

善通寺市に現存する旧陸軍関連施設には、車寄せに特徴があります。旧司令部庁舎の車寄せは、1922 年（大正 11 年）の陸軍特別大演習が実施された際に、当時の皇太子（昭和天皇）の来臨を機に付け足したものです。

旧司令部

身近な公園の景

偕行社かふぇ

旧善通寺偕行社

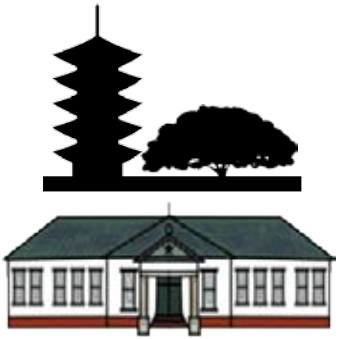
入場無料。
（午前１０時～午後４時）
事務室で解説を依頼することもできます（0877-63-6362）。おしゃれな「偕行社かふぇ」が併設され、軽食を楽しめます。

和洋折衷の景

旧偕行社（写真左）や旧司令部（写真上）の玄関ポーチの前には、ロータリーが設けてあり、その内部には大名庭園でお馴染みの松や蘇鉄が植えられています。いずれも手入れが行き届いており、木造洋館と和風庭園が明治時代の独特な景観をつくり出しています。また旧偕行社の背後には、沈降ガーデン風の庭園が設けられています（写真上左）。

編集後記

「新 散策善通寺」第３号では、日頃何げなく気が引かれる市内に点在する西洋建築を取りあげました。調べてみると、明治の西洋建築には様々なものがあることが分かりました。そこで、愛知県の明治村でこれらの建築物を総合的に見聞したところ、市内の身近な西洋建築の価値に改めて気づきました。今回号をお手に取っていただき、市内の建造物を見なおすきっかけになれば幸いです。四国学院大学２年　田井花音・鳥生ななせ・川上周大



アクセス

バック・ナンバーは左の HP「散策 善通寺」より閲覧できます。
http://shigakuweb.jimdo.com

制作・お問い合わせ
四国学院大学　空海カフェ
(shigakuweb@yahoo.co.jp)

制作協力
善通寺市役所土木都市計画課
(Tel. 63-6314)

参考文献
みちくさ遍路 2001

印刷・製本　株式会社　弘栄社